

後援会だより

2020年を迎えるに当たって



後援会会長 渡辺康太 (啓仁 / 理工学部)

2019年度も後援会活動に多大なるご支援、ご協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

2019年の夏から秋にかけての集中豪雨等により、多くの方が被災されました。心より、お見舞い申し上げます。被災された後援会員の家庭に対し、本学および後援会ではサポート体制を用意しております(詳細は大学ウェブサイトの「重要なお知らせ」に掲載)。被災された方が、早期に日常生活に戻れるよう祈念いたします。

後援会では2020年も、「HOSEI I2030」で掲げられたミッション、ビジョン、そしてプランディング作業を支援してまいります。大学、校友会と三位一体となつて、本学学生が「自由を生き抜く実践知」を身に付けられるように支援していきたいと思っております。スポーツでは、法政大学体育会39団

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

支部長懇談会および支部長会議報告



後援会副会長 石橋久美子 (沙也花 / 理工学部)

11月9日(土)、10(日)に、市ヶ谷キャンパスのポアソナード・タワー26階スカイホールにて支部長懇談会および支部長会議が行われました。これは、首都圏以外の全国36支部の支部長や副支部長などが集まる会議です。

1日目の支部長懇談会では、総務部庶務課の金子大輔課長に「個人情報取り扱い」についてお話しいただき、あらためてその利用方法を確認できました。また卒業生・後援会連携室の江藤剛さんによる「災害時の危機管理について」では、大学の危機管理体制や緊急時の連絡、掲載方法などを知ることができました。

2日目の支部長会議では、大学主催の「防災キャン



プ」を見学。災害時の帰宅困難を想定して学内で一夜を過ごした体験談をお聞きした後、非常食(飲料水やようかん、クッキー)の備蓄庫を見学。各キャンパスには学生の7割×3日分の非常食が常備されていると伺いました。

その後、ポアソナード・タワーで、各支部と校友会との連携について情報交換が行われました。さまざまな意見を耳にし、同じような悩みがあると分かった、また今後の活動にヒントを得たという支部もあつたことでしょう。

後援会の活動は学生の支援が目的です。これからも持続可能な活動ができるよう、実りある会議を続けていきたいと思っております。

第31回出雲全日本大学選抜 駅伝競走応援ツアー報告



広島県支部支部長 繁岡里和 (大河 / 文学部)

昨年(2019年)に続き、10月14日(月・祝)に出雲駅伝応援ツアー(参加者20人)を実施いたしました。広島駅を8時30分に貸切バスで出発し、12時前に出雲大社近くの道の駅「大社緑広場」に到着、そこで出雲そばの昼食をとりました。

道の駅からは徒歩で、1区・神門通り応援場所に移動し、大学応援団、校友会の出雲支部と鳥取・島根県支部の皆さまと共に声援を送りました。

その後、バスで第5中継所のある鳥根ワイナリーに移動し、ワインやぶどうジュースの試飲をしたり、鳥根の特産品を買ったりと観光気分を楽しみました。

続いて、ゴール地点の出雲ドーム前応援場所に移動し、応援団や他の皆さまと共に声援を送りました。沿道では、想像以上のスピードを感じ、各大学



援団の熱の入ったパフォーマンスを目にして、テレビ観戦とはまた違う臨場感を味わえました。

大会結果は、シード権までわずから16秒差の10位でした。今後の活躍を期待しています。レース後には監督、選手に写真撮影に応じていただき、より一層身近に感じることもできました。



帰路のバスの中では、鳥根ワイナリーで購入したワインを飲んだり、お菓子やおつまみを皆で食べたりとワイワイと楽しく過ごし、20時ごろ広島駅に到着後、解散しました。約12時間の行程でしたが、皆さん満足された様子で、ぜひまた企画したいと思っております。

最後になりましたが、校友会出雲支部、卒業生・後援会連携室の方には、準備の段階から大変お世話になりました。ありがとうございました。

第51回全日本大学 駅伝対校選手権大会応援報告



東海支部副支部長 安藤 安奈 (秀次 / 経営学部)

2019年も、第51回を迎えた全日本大学駅伝の応援に、東海支部として参加してきました。

2019年は天候も恵まれ、スタート地点の熱田神宮西門で、応援団、チアリーダー、校友会の皆さんをはじめ、一般のOB・OG関係者にもご参加いただいで、応援を開始。

特に2019年は、4区の走者を選ばれた田辺佑典選手が、東海支部の会員の息子さんとおつて、もはや身内を応援する気持ちで、ひときわ力が入りました。

また、昨年よりも幟(のぼり)の数を増やし、どこに立てれば幟がテレビに映るかも考えました。一般の方々も



応援バナーを快く受け取ってくださり、一丸となって応援しました。残念ながらシード権獲得には至りませんでした。来年も「法政オレンジ」が伊勢路を駆け抜けていくことを期待しています。

最後になりましたが、後援会本部、校友会、一緒に応援してくださった沿道の方々のために感謝の気持ちを代えていただきます。来年もよろしくお願ひいたします。

来年もよろしくお願ひいたします。



副学長・学部長・学生センター長・後援会役員懇談会報告



後援会総務 磯崎 恵美子（夙／経営学部）

11月9日（土）、市ヶ谷キャンパス富士見ゲート4階G403教室において、「副学長・学部長・学生センター長・後援会役員懇談会」が開催されました。

この会は、大学と後援会とが情報を共有し、意見交換をする大変貴重な機会です。毎年開催されています。

大学からは、廣瀬克哉常務理事と齋藤勝学生センター長にご出席いただきました。後援会からも、全国からお集

まりいただいた36支部の支部長・支部役員を含む多くの役員の方々が参加されました。

冒頭の渡辺康太後援会会長のあいさつに続き、廣瀬常務理事の講演では「HOSEI2030の進捗について」の説明があり、もともと育んでいた「進取の気象（先見性と速さ）」からの大学憲章「自由を生き抜く実践知」の成り立ち、大学の留学や授業制度などのグローバル化の取り組みについて、引き続き法政ブランディングを発信していく旨のお話がありました。

その後は、齋藤学生センター長に、「最近の学生の課外活動と生活トラブルについて」をお話いただきました。大学祭でのお酒にまつわる話、サークルなどの旅行の危機管理や安全性への配慮、マルチマが知ることの少ない、実際に起こった事例を生々しくお話しいただきました。

東北でのボランティアの継続についても、コミュニケーション支援が必要などとても興味深い内容で、これからも課



外活動やボランティアセンターの支援を継続したい、学生の安全を守るのが仕事と締めくくられました。

学生に愛情を持って真剣にご指導くださることを、ありがたく感じました。また、親が子どもを守るために、日ごろからコミュニケーションを取っておくことの大切さを再認識しました。

規模の大きな大学でありながら、学生や保護者に丁寧に向き合ってくださる先生方の誠実な姿勢を感じ取るこ

ができました。
懇談会でも、大学と後援会の連携の重要性をあらためて実感しました。お忙しい中、先生方にお集まりいただき、このような懇談会の場を設けていただいたことに、心から感謝申し上げます。



写真で振り返る後援会



- 1 5月18日（土）幹事会／市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 「スカイホール」
- 2 5月25日（土）新役員予定者説明会／市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 「A会議室」
- 3 6月1日（土）支部長会議／市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 「スカイホール」
- 4 6月1日（土）総会／市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート 「G403教室」
- 5 6月22日（土）役員研修会／市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 「スカイホール」
- 6 6月27日（木）常任参与と運営委員懇談会／市ヶ谷キャンパス 九段校舎 「第二会議室」
- 7 7月27日（土）沖縄県支部総会・父母懇談会／沖縄ハーバービューホテル
- 8 10月6日（日）首都圏父母懇談会／市ヶ谷キャンパス